

令和元年9月25日

決算特別委員長
立 脇 通 也 様

教育民生分科会長
米 田 ときこ

決算特別委員会教育民生分科会 分科会長報告について

今期定例会において、決算特別委員会から教育民生分科会に分担、委託された案件の審査に関する分科会長報告内容は下記のとおりです。

記

1. 報告内容

決算特別委員会から、教育民生分科会に分担、委託されました決算4件につきまして、9月13日並びに17日に分科会を開催し、17日には現地踏査も実施し、審査を行いましたので、ご報告申し上げます。

決算第1号 平成30年度松江市一般会計歳入歳出決算中の質疑で主なものは、

成年後見人養成事業についての質疑に対し、執行部より、「市が養成した市民後見人の方は2名いらっしゃるが、平成30年度の活動状況としては、1名の方が1ケースを担当しておられるが、もう1名の方はケースは持っておられない。バンク登録者については10名であり、そのうち今年1名の方が選任される予定ということで、調整されるように伺っている。また、成年後見人制度の利用人数については493人である。」、

次に、緊急一時預かり事業と幼児教育・保育無償化の関係についての質疑に対し、執行部より、「幼児教育・保育無償化は3歳から5歳を中心に行われる。0歳から2歳の非課税世帯についても10月から無償化の対象となる。津田と大庭の幼稚園で行っている緊急一時預かり事業を利用される方も、非課税世帯であれば月額1,400円の利用料が10月から無料となる。」、

「他の幼稚園から緊急一時預かりをしたい希望はあるのか。」との質疑に対し、執行部より、「公立幼稚園から希望は出ていない。」、

次に、特別支援に関わるサポーターの配置についての質疑に対し、執行部より、「島根県のにこにこサポートの非常勤講師は島根県全体で、普通クラスに100名で、うち23名が松江市に配置となっており、増員の要望は毎年行っているが、ここ5年間は変わっていない状況である。」、

次に、ICTの導入とその財源についての質疑に対し、執行部より、「導入となれば教員の意識改革を進めていくことが大切だろうと考えている。」、「財源については、鋭意、財政と協議しながら、なるべく他の事業に影響が出ないように進めていきたいと考えている。」

などの質疑に対する答弁がありました。

決算第5号 平成30年度松江市介護保険事業特別会計歳入歳出決算は、質疑はありませんでした。

決算第9号 平成30年度松江市母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計歳入歳出決算は、

質疑に対し、執行部より、「平成29年度の県の実績と比較すると、貸出しの実績については、約88パーセント、1,632万円余りの減額となっている。貸し付けの内容は、修学資金がほとんどであるが、生活資金の貸付に関する相談があれば、母子父子自立支援員等が面談をする中で、担当部署を紹介するなどの対応をしている。」

などの質疑に対する答弁がありました。

決算第14号 平成30年度松江市病院事業会計決算の質疑で主なものは、

「5年連続の経常黒字、4年連続の純利益を計上されており、努力は大変評価しているが、キャッシュフローを見ると資金残高が減少している。今回の決算を踏まえた今後の方針についてはどうか。」との質疑に対し、執行部より、「平成30年度は起債の償還がピークをむかえ、非常に資金需要は厳しい状況であった。新規入院患者数は伸びたものの、高度急性期病院の傾向として、平均在日数の短縮等により延べ患者数が減少している。今後も引き続き開業医等からの紹介をいただきながら、入院患者数の増加につなげていきたい。また、入院していただく方には集中的な治療をすることで、地域包括ケアの中核を担っていく方針である。」

次に、医業外費用における長期前払消費税償却及び消費税関係雑支出についての質疑に対し、執行部より、「長期前払消費税償却については、がんセンター建設に要した消費税を一括で負担をし、これを繰り延べて償却している。消費税は、当院のように高度医療を展開するために投資を行っている病院については、全国的に見ても、十分回収ができていない状況であり、経費的に重荷となっていることから、制度の改善について全国市長会を通じて要望を行っている。」

次に、病院事業新改革プランとその実績についての質疑に対し、執行部より、「かかりつけ医との紹介率、逆紹介率は改革プランの数値目標以上に伸びているなど、全体としては概ね改革プラン通りに進んでいる。」

次に、「高度医療機器の導入が求められているが、今後どういう機器に投資をしていくのか。」との質疑に対し、執行部より、「高度医療機器については概ね整備が整ったところである。現在の病院に移転して14年になるが、当時高額な機械を導入しており、次はそれらの更新が喫緊の課題となっている。」

次に、消化器外科の入院延患者数が前年度と比較して減少した理由についての質疑に対し、執行部より、「内視鏡手術などによる低侵襲性手術により入院の期間が短くなっており、患者さんの負担軽減に寄与している。」

次に、「薬剤師の確保が難しい中、今回5名の増員となっているが、その要因はどこにあるのか。」との質疑に対し、執行部より、「今年度から病棟薬剤師業務実施加算を算定するために薬剤師を5名増員しており、採用試験でも募集定員を大幅に上回る応募がある状況であり、当病院が質の高い医療を提供しているということで評価をいただいているものと考えている。」

などの質疑に対する答弁がありました。

以上で、教育民生分科会の報告を終わります。